



ザリガニは、冬の間にどこにいるの

ザリガニは冬眠する

ザリガニは、カエルやこん虫などと同じように、周りの温度が下がってくると、体温が下がって動けなくなる、変温動物です。ですから、気温が下がってくると、大きなはさみで、田んぼや、川の岸近くに、深いあなをほり、あなの底にたまった水が暖かくなるまで、じっとねむってすごします。あなの深さは1メートルをこすこともあります。地面の下に行くほど、外の気温に関係なく、いつも同じような温度なので、水気のたっぷりある、どろのあなは、ザリガニには、すごしやすいのです。

あなの底の、水の温度で春がわかる

あなの底にたまった水の温度は、すぐには暖かくなりませんので、冬の暖かい日に、うっかり春がきたとかんちがいすることもあります。

子どもザリガニは、水の中で冬をこす

あながほれるほど大きいはさみがない、子どものザリガニは、下の方はあまり水温が変わらない深い池や、1年中あまり温度が変わらない、わき水の流れなどを見つけて、そこで冬をすごします。おとなのザリガニでも、あまり温度が変わらないわき水の流れなどでは、冬でも元気に動き回っていることがあります。（監修・中山 周平）

春、あなから出てきたザリガニ

